

デルフィニウム ‘さくらひめ’ の収穫方法の検討

横井昭敏 藤堂太 下田かおり

Investigation of harvest method for *Delphinium grandiflorum* F1 hybrid variety ‘Sakurahime’

YOKOI Akitoshi, TOUDOU Futoshi, SHIMODA Kaori

要旨

デルフィニウム ‘さくらひめ’ は、従来品種に比べ草勢が強いため、低温管理となる促成栽培の2番花の栽培時には、分枝数が多くなること、また、特に生育が旺盛な株ではその枝が伸びすぎて草姿が乱れることがあり、これにより、切り花品質の低下を招くことがある。そこで、従来の株元から収穫する方法と、分枝ごとに収穫する方法について比較検討した結果、分枝ごとに収穫した切り花は株元から収穫する切り花に比べ1株当たりの切り花本数が増加し、1株当たりの販売金額は2.2倍となった。また、分枝ごとに収穫した切り花の市場評価は高く、ホームユースや業務用需要が見込めることが分かった。

キーワード：デルフィニウム、さくらひめ、枝切り、枝別切り花法、ホームユース

1. 緒言

シネンシス系デルフィニウム ‘さくらひめ’ は、2015年2月に品種登録された愛媛県農林水産研究所の育成品種である。ピンク色の花色を持ち、同色の従来品種 ‘ハッピーピンク’ に比べ草勢が強く、草丈や花序長が長く、小花数が多い(岡本ら, 2014) などの特徴がある(表1)。

シネンシス系品種の一般的な切り花栽培では、主枝の蕾を摘心することにより分枝を伸ばさせ、スプレイ状の草姿として、株元から収穫する(以下元切り)。従来品種は、分枝が短いため、コンパクトな草姿となるが、‘さくらひめ’ は分枝が伸ばし、また、分枝数も多いためボリューム感のある草姿となる。しかし、促成栽培の2番花の栽培時に低温で管理すると、分枝が伸びすぎて巨大化し、草姿が乱れ、元切りでは出荷できない場合があり問題となる。

そこで、分枝長が長く、小花数も多い ‘さくらひめ’ の特徴を生かした分枝ごとに収穫する(以下枝切り) 収穫法について検討し、収量および品質、切り花の商品性について検討したので報告する。

2. 材料及び方法

2.1 耕種概要

‘さくらひめ’ を、2014年7月25日に200穴セルトレーに播種後、17℃恒温器内(8時間日長)で発芽させ、概ね本葉出葉時(8月15日)まで管理した。その後、愛媛県農林水産研究所花き研究指導室(以下花き研究指導室)のクーラー育苗施設(暗黒条件下での人工照明時23℃、消灯時13℃)で育苗した。

苗は、花き研究指導室のガラス温室(189㎡)に、2014年9月25日に定植し、栽植密度は、枝切り区では株張りを考慮し、同じデルフィニウムで株張りのよいエラータム系に準じた畝幅120cm、株間23cm、条間30cmの2条植え(724株/a)とした。元切り区はシネンシス系に準じ、畝幅120cm、株間18cm、条間18cmの4条植え(1,851株/a)、各区15株の1区制とした。

肥料は有機ペレット肥料を用い、基肥としてN-P₂O₅-K₂O各1.2kg/aを定植1週間前に、追肥として抽台後から月1回N-P₂O₅-K₂O各0.6kg/aを施用した。

温度管理は、換気温度を23℃、最低気温を10℃にした。電照は、2014年12月1日から2月28日の間、17:00から21:00の日長延長とし、光源には電球色蛍光灯13Wを用い、6㎡当

たり 1 灯を高さ 1.5m の位置に設置した。

2.2 収量及び品質調査

切り花方法については、主枝の花序を摘心することで発生する 5 本程度の分枝を伸長させ、スプレイ上の草姿として株元から切り花とする元切り区（図 1）と、分枝をそれぞれ 1 本ずつ切り花とする枝切り区（図 2）を設けた。切り花の収量および品質は、1 番花および 2 番花について、元切りは 70% が開花、枝切りは 80% 開花した時に切り花とし、枝切り区は切り花日、切枝長、花数、切り花本数を元切り区は、切り花日、切り花長、枝数、切り花本数を調査した。

2.3 経営評価

収量及び品質調査に供した切り花を、地元の M 市場で 2015 年 1 月 9 日と 5 月 8 日に販売し、枝切り区は 70cm と 60cm、元切り区は 90cm と 110cm の単価を用い、切り花本数より、各切り花方法での販売金額を推定した。

2.4 市場調査

2016 年に、枝切りした切り花を、広島県公設花き卸売市場と東京都公設中央卸売市場に送付し、市場、仲卸業者、小売店から枝切りした切り花の希望切り花長、希望単価、主な用途、その他の要望について、聞き取り調査した。

表1 さくらひめと既存品種との比較表

系統名称	開花日※1	草丈 (cm)	花序			花形	花径 (cm)	花色※2
			長さ(cm)	幅(cm)	小花数			
さくらひめ	12月15日	93.6	35.4	12.7	11.2	一重	4.5	淡ピンク
従来品種(対照)	12月20日	70	17.5	12.7	6.3	一重	4.5	淡ピンク

※1：1 番花の開花日(平成 24 年 9 月 24 日定植)

出典「2014 JATAFF ジャーナルVOL.2」

※2：花色の日本園芸植物標準色表コードは (0102)



図1 元切り [巻末カラー写真参照]

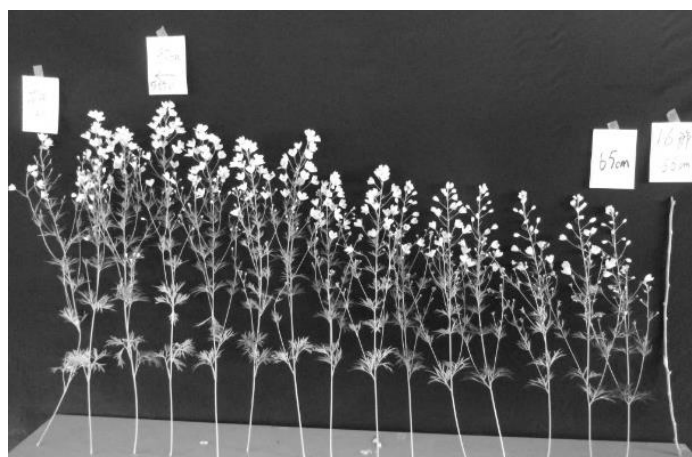


図2 枝切り [巻末カラー写真参照]

3. 結果

3.1 収量及び品質

枝切り区の切り花期間は1番花が12月19日から1月29日、2番花が4月19日から5月28日までであった。元切り区の切り花日は1番花が12月31日～1月5日、2番花が4月23日～5月9日までとなった(表2)。平均切り花日は、枝切り区と元切り区では差は見られなかった。しかし、1番花の切り花始めは、枝切り区が12日早く始まり、切り花終わりも17日遅かった。2番

花についても切り花始めは枝切り区が4日早く始まり、切り花終わりは2日遅くなった。枝切り区の切り花期間は、1番花2番花とも約30日間となり、元切り区よりも長くなった(表2)。

枝切り区の切り花本数は1番花11.4本/株、2番花20.3本/株となり、元切り区は1番花1本/株、2番花2.7本となった(表3)。

枝切り区の切り花長は、1番花70.1cm、2番花62.0cmとなった。元切り区は1番花93.5cm、2番花116.5cmとなった(表4)

表2 切り花方法の違いによる切り花時期の違い

切り花方法	切り花時期	切り花始め	切り花終わり	平均切り花日
枝切り	1番花	12月19日	1月29日	1月6日
	2番花	4月19日	5月28日	5月9日
元切り	1番花	12月31日	1月12日	1月5日
	2番花	4月23日	5月26日	5月9日

表3 切り花方法の違いが切り花本数に及ぼす影響

切り花方法	切り花時期	切り花本数 (本)	出荷可能本数 [※] (本)
枝切り	1番花	11.4	11.2
	2番花	20.3	17.5
元切り	1番花	1.0	1.0
	2番花	2.7	2.7

※：切り花本数のうち出荷規格に適合する

表4 切り花方法の違いによる品質

	切り花時期	切り花長 (cm)	花数 (輪)	枝数 (枝)
枝切り	1番花	70.1	12.7	—
	2番花	62.0	12.2	—
元切り	1番花	93.5	—	4.7
	2番花	116.5	—	6.1

3.2 経営評価

枝切り区の切り花単価は1番花40円、2番花35円と元切り区の1番花140円、2番花123円に比べ低いですが、切り花本数は枝切り区の方が元

切り区の約7.7倍と高いため、1株あたりの総販売額は、枝切り区1,060.5円に対して、元切り区は472.1円と枝切り区の方が約2.2倍高くなった。しかし、1a当たりの販売額は枝切り

区の方が栽植密度が低く、枝切り区の 768,863 円に対して元切り区は 873,857 円となった(表 5)。

3.3 市場調査

広島県と東京都の市場、仲卸業者、小売店による枝切りの希望する切り花長は 50cm～70cm であった。希望単価は、1 本あたり 50 円～60 円であった(表 6)。この希望単価は地元 M 市場の単価が 35 円～40 円(表 5)であったものに対して、やや高くなる評価を得た。さくらひめは分枝 1 本の花数が 12 輪程度と多いため(表 4)、分枝 1 本でも業務用に利用でき、元切りより使いやすい評価を得た。しかし、小売店によっては枝切りよりも元切りの方が高品質のイメージがあり、枝切りの定着と名称を表記した方が評価が高くなる可能性が示された(表 6)。

4. 考察

シネンシス系デルフィニウムの従来品種は、分枝長が短く、分枝ごとに切り花とする方法は考

えられなかった。しかし、‘さくらひめ’は、分枝が伸び、花数も多いことから、分枝でも切り花長 50cm～60cm が平均的に切れ、枝切りはホームユースや業務用の利用ができることが分かった。また市場、仲卸業者、小売店から、分枝の切り花への評価が高く、さくらひめを分枝ごとに切り花とする新しい方法が考えられた。ただし、出荷箱に枝と表記した場合、枝切りが浸透していないため低い評価となる可能性がある。このため、新しいネーミングの仕掛けが必要と考えられる。

枝切り区の 1 株あたりの販売額は元切り区の 2.2 倍となったが、今回の試験では枝切りの株張りを予想して、エラータム系の栽植密度に準じたため、定植本数は元切り区の 39%となり、1a 当たりの販売額は、元切りのほうが 1.1 倍高くなった。枝切りは下位の分枝まで切り花とするため、栽植密度は広い方が好ましいと考えられるが、収益性の観点からは、枝切り栽培にあわせた栽培密度の検討が必要である。合わせて枝切り栽培における適切な摘心位置や電照処理等の検討を行うことで、体系的な枝切り栽培法の確立が可能と考えられた。

表 5 切り花方法の違いによる販売金額の試算

切り花方法	切り花時期	単価 ^{※1} (円)	出荷可能本数 ^{※2} (本)	定植本数 (本/a)	販売金額 (円/株)	販売金額 (円/a)
枝切り	1 番花	40	11.2	1,851	448.0	324,800
	2 番花	35	17.5		612.5	444,063
	計	—	28.7		1,060.5	768,863
元切り	1 番花	140	1.0	724	140.0	259,140
	2 番花	123	2.7		332.1	614,717
	計	—	3.7		472.1	873,857

※1：当所が M 市場に出荷した 2015 年 1 月 9 日と 5 月 8 日の単価を適用

(規格は、枝切り区：切花長 70 cm, 60 cm, 元切り区：90 cm, 110 cm)

※2：出荷可能本数は、曲りや奇形、花数を除いた切り花

表6 枝切りしたさくらひめの市場、仲卸業者、小売店からの評価

調査対照		希望 切り花長 (cm)	希望単価 (円/本)	枝切りに対する要望等
市場	東京 F	—	—	枝切りする切り花は用途が限定 少量でも継続的に出荷 他産地も枝別切り花をしているため新たな表示が必要 (アレンジ)
	広島 H	50~60	—	表示に名前が必要
仲卸業者	東京 H	50~60	60	ブライダルでの用途が多いと予想され、元切りより枝 切りの方が使いやすい 秀・優の等級が必要
小売店	東京 A	—	50	1本50円の単価は高くないが、1箱あたり3,000円/箱を希望
	広島 D		50	枝切りは元切りに比べ花持ちが悪く感じる
	広島 O	60~70	50	元切りの方が購入しやすい 枝切りで長い切り花は経験がない

引用文献

岡本充智, 廣瀬由紀夫, 中村嘉宏 (2014): デルフィ
ニウム新品種‘さくらひめ’の育成, 愛媛農林水産
研報, 3